

令和6年度 宮崎県立門川高等学校 【年間反省】

①教務部

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)			改善 (A)	
			評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果	指標別	
1. 教育環境の基盤づくりのため、教育課程編成と学習指導の充実の実現に取り組む。	1.生徒が主体的に学ぶ授業の実践。	①生徒の実態に応じた特色ある教育課程の編成および評価についての研究・実践を行う。	4	3	3	◎	自由選択科目を増やすことで生徒の学びの多様化を図ることができた。評価に関して、各教科担当に個別に確認し声掛けを行うことで適切な評価が行われているかをチェックする体制の構築を図った。
		②ICT機器の適宜活用を前提とした個別最適化を図り、生徒の「考えるチカラ」や「行動するチカラ」の育成を目指す。	3			○	各教科代表を中心として、それぞれの教科においてICT活用の増進や個別最適な学びの実現に向けて研究を行っている状況があるが、全体での情報共有を行うことにより、さらに進展させていくことが今後の課題である。
	2.学力向上への組織的対応。	①日々の業務の確実な遂行と各行事・式典の計画的な運営を行う。	3		4	○	各系列等の細かい取組を全体に周知することができていないことが多い、例年と比較して先生方からの問い合わせが多くあった。今後はミライム等を利用し各情報の周知徹底を図っていただきたい。
		②年次や他の校務分掌と連携し、多様な生徒への学習支援について研究し、生徒の学習環境を整備する。	4			◎	定期検査前に教室を見回って整備を行ったり、教育相談部との連携によるルビ振りや別室受験への対応をしたりするなど、学習環境の整備に係る学習支援に取り組むことができた。学校全体での取り組みにしていただきたい。
		③各教科・年次と連携を図り、各検査前後の取り組みを充実させる。	4			○	例年と同じく検査前の学習会を滞りなく行った。さらに年次主体での検査後の取り組みについて実験的に実施することができた。協議検討を行い、生徒の実態に合った検査前後の取り組みとしていただきたい。
		④指導と評価の一体化を図るために職員向けの研修や情報発信を適宜行う。	3			○	例年通り4月当初に観点別評価をテーマとした職員研修を実施し、評価についての足並みを揃えることができた。教科代表者会を中心とした適宜な情報発信を心がけたい。
		⑤生徒の実態に応じた日々課題やフェニックススタイルの計画の見直しを通り、生徒の学習習慣の定着を図る。	4			○	図書室外部と連携し朝読書の中にフェニックススタイルを組み込むことができた。生徒の実態に合わせた学習支援を今後も実施していただきたい。
		⑥教科総合訪問を通して、教科横断的な学習指導のきっかけを作るとともに、教員の授業力向上を図る。	4			◎	研究授業や研究協議など授業力向上に係る有意義な研修となった。先生方のご協力ありがとうございました。職員アンケートの提出がまだの方はよろしくお願いします。
	2. 特色ある学校づくりのため、広報活動の充実と保護者や地域との連携に取り組む。	1.計画的・戦略的な広報活動の充実。	①本校への興味関心を喚起するべく、中学生の視点に基づいたパンフレットやポスター、学校紹介動画の作成を、生徒を主体として行う。	3		○	インスタグラムの積極的な活用と、学校案内パンフレットの制作に尽力した。来年度のパンフレット作成についても年度内に取り掛かり、計画的に作業を行っていただきたい。
		②多様な機会やメディアを利用し、中学生や地域への情報発信を積極的に行い、オープンスクールの参加者の増加を図る。	3	○		広報委員会の生徒を中心として学校広報についての協議を行なうことができた。学校HPやYouTube動画の更新など積極的に取り組んでいただきたい。	
		③門川町や学校評議員など、校内外と連携し、参加者の満足度の高いオープンスクール及び授業公開の企画・運営を行う。	2	●		教科総合訪問と合わせて授業公開を行う予定であったが、手が回らなかつたため断念してしまった。オープンスクールについては例年通りの計画であったため、他校事例等を参考にしてより良いものにしていただきたい。	
		④校内の様々な行事や取り組みに積極的に地域を呼び込む計画を検討する。	3	○		様々な場面で地域と連携した取り組みを行なうことができているが、次年度に向けて各情報の集約や周知を徹底していただきたい。	

②生徒支援部

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)			改善 (A)	
			評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果		
篤実剛健の精神を身につけた品性豊かな生徒を育成する。	(1) 部活動加入の向上及び定着化を図り、部活動の生徒による学校活動の活性化を図る。	①全校生徒の部活動加入率及び定着率の向上を図る。(部活動欠席者集会及び体験活動を年2回以上開催する)	3	3	3	△	1年生における加入状況は良かったが入学後の定着状況がもう少し伸びてくると良いと感じる。安易な部活動変更をさせない変更も前向きな変更になるような指導を行いたい。
		②大会成績や活動実績で評価できる個人・部(同好会)に対して表彰を行う。	3			○	年間を通じての表彰になると思うが、現状では陸上部は多くの入賞者を出してと考える。表彰する機会を考えたい。
		③学期終了時及び定期検査最終日に部活動集会を実施する。	3			○	すべては実施できなかったが部活動生としての意識を醸成することは出来た。
		④部活動生による年2回の校内外での奉仕活動及び地域イベントへの参加を積極的に行う。	4			○	実施できた。陸上部を中心に中学校の体育大会支援や野球部の門川町ベースボールフェスタへの参加など地域貢献に成果があった。
	(2) 生徒会役員が中心となり、生徒一人ひとりが気づき楽しむことができる行事の企画・運営を図る。	①各種委員会の全クラス出走率100%を目指し、各クラスで各種委員会の報告を行うことで、活動の活性化を図る。	3		4	△	残念ながら100%の参加ではなかった。各クラスでの委員会の内容周知がどのように行われているか確認する必要がある。
		②生徒の活躍の場となる生徒会行事で全生徒が積極的に関わることのできる企画・運営を行う。	4			○	各種行事に対して積極的に取り組んだ。生徒のアイディアがもっと出てくるような企画、運営力を身につけさせたい。
		③年次団と連携した遅刻指導を行う。	2			×	再指導を受ければなんとかなるのではという考え方の生徒が多くいる。マナーアップカード6枚切られ特別指導になる生徒も出てきており、特に1年生の意識の変革が必要である。
	(3) 基本的生活習慣や社会的マナー等の規範意識の育成を図る。	①風紀委員主導の活動を活性化し、服装容儀指導本指導での合格率80%以上を目指す。再指導で合格率100%を目指す。	2	2	3	△	強化週間は設けられたが、生徒の服装に対する意識や授業態度、学校生活におけるマナーを高められるような取組にしていただきたい。
		②マナーアップ指導強化週間を学期1回以上実施し、全員共通理解のもとに指導を行う。	3			△	同じ生徒が同じように遅刻する。習慣が変わらない。
		③年次団と連携した遅刻指導を行う。	2			△	点検は1回しか行われなかつたが、施設率は昨年度60%だったものが80%近く上がっている。自転車ヘルメット着用に向けての動きを加速させたい。
	(4) 学校安全教育を通じて、安全に関する意識及びマナーを学び実践力の向上を図る。	①交通安全委員主体の自転車点検を各学期1回以上を行い、校内外の自転車マナー及び防犯意識の向上につながる指導を行う。	3	3	3	○	2学期は定期的実施できなかつた。外部からのクレームで臨時に実施したが、乗車マナーや列車内でのマナーの改善を図つた。
		②列車通学生集会を年2回行い、利用マナー等の指導を行う。	3			△	2学期は実施できなかつた。PTAと連携した登校指導は企画できなかつた。
		③全職員での登下校指導を年3回及びPTAと連携した登校指導を年1回実施する。	2			△	門川町との連携の動きやSPSに関する各種発表を通じて一定の評価を得ている。防災士の資格を取得するなど意識の高い生徒も増えている。各種避難訓練や地域連携の防災活動を通してより一層の理解と意識を高めさせたい。
		④統一LHRや避難訓練、学校安全連絡協議会等を計画的に実施し、防災(減災)教育の充実を図り、防災(減災)意識を高める。【SPS関係】	3			×	無断アルバイトによる指導で4人が指導された。アルバイト説明会は実施されたが、集会は実施できなかつた。アルバイト先の巡回指導を実施したい。
	(5) 年次団、系列、家庭、地域、関係機関等の連携を密にし、生徒に多くの経験積ませることで社会性の向上を図る。	①無断アルバイト者0を目標に、定期的にアルバイトの説明会や集会を開く。また、平常時アルバイト先の巡回を年1回以上行う。	2	2	2	○	多くの機会を捉えて積極的に参加している生徒が見られる。町内のイベントでの参加はめざましい。
		②ボランティア経験者50%以上を目標に、案内を適宜行う。	3			×	問題行動上、警察との連携は密に行なわれた。地域からのクレームは通学、下校時、駅周辺での態度であることが多い。
		③関係機関等との連携を密に図り、生徒の規範意識を高める指導を行う。	2			○	

③進路指導部

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)			改善 (A)			
			評価項目	評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果	指標別	総合	結果の分析考察・課題改善案
生徒の進路目標を明確にさせ、社会状況及び個に応じた組織的・継続的な指導・支援を行い、広く社会に貢献できる「人財」を育成する。	(1) 3年間を見通した進路指導につながる組織的な取り組みを学校全体で行う。	①校内の進路指導・キャリア教育につながる取り組みを整理し、学校全体で取り組む。	4	4	○	キャリア担当中心に、科及び系列・年次等と連携し、学校全体でのキャリア教育に取り組むことができた。	4	4	キャリア担当中心に、科及び系列・年次等と連携し、学校全体でのキャリア教育に取り組むことができた。
		②キャリアワーク、キャリアログを活用して、学年に応じたキャリア教育計画を実践する。	4		○	キャリアログ等の活用法を提示し、毎週の記録日や行事の後の書き込み時間の設定等により、年度を重ね活用できるようになってきた。			キャリアログ等の活用法を提示し、毎週の記録日や行事の後の書き込み時間の設定等により、年度を重ね活用できるようになってきた。
		③企業訪問や学校説明会への参加を積極的に行い、進路開拓の一助とする。	3		○	関係する校務分掌と協力し、通年の活動計画を立て教育活動や、学校行事及び企業説明会への参加などをを行うことができた。徐々に成果に現れつつある。			関係する校務分掌と協力し、通年の活動計画を立て教育活動や、学校行事及び企業説明会への参加などをを行うことができた。徐々に成果に現れつつある。
	(2) 数年先まで見据えた進路先の開拓を行う。	①企業訪問や学校説明会への参加を積極的に行い、進路開拓の一助とする。	3		—	—	—	—	—
		②校内実施する進路ガイダンス・卒業生の声を聴く会・地元企業による説明会の計画・調整・運営を組織的に行う。	4		○	一学期に「卒業生の声を聴く会」を実施し、パネルディスカッション形式で意義あるものとなつた。現在、1・2年次に対する「進路ガイダンス」や「地元企業による説明会」を計画・調整中である。	一学期に「卒業生の声を聴く会」を実施し、パネルディスカッション形式で意義あるものとなつた。現在、1・2年次に対する「進路ガイダンス」や「地元企業による説明会」を計画・調整中である。		
		③校外で行われる進路説明会・オープンキャンパスの参加案内を適宜行い、生徒の年2回以上の参加を目標とする。	3		○	3年生を中心校外で行われた進路説明会等に多数の生徒が参加した。進路意識の向上につながったと思われる。	3年生を中心校外で行われた進路説明会等に多数の生徒が参加した。進路意識の向上につながったと思われる。		
	(4) 生徒・保護者に対する卒業後の進路決定に向けての取り組みを充実させる。	①「産業社会と人間」の取り組みについて、内容と効果的な指導方法について検討する。	4		○	毎時の授業において、生徒の実態に即した内容となるよう指導案を事前に配布し実施することができた。今後は、2、3年次のキャリア教育のつながりについて更なる検討を重ねて行きたい。	3	3	毎時の授業において、生徒の実態に即した内容となるよう指導案を事前に配布し実施することができた。今後は、2、3年次のキャリア教育のつながりについて更なる検討を重ねて行きたい。
		②進路対策講座(夏期ほか)について検討・実施を図る。	4		○	ハローワーク等の協力のおかげで、進路対策講座をおこなうことができた。夏季進路対策講座では、上級学校の話を聴く機会もあり、進路意識の向上に結びついた。3年生への指導体制の構築ができた。			ハローワーク等の協力のおかげで、進路対策講座をおこなうことができた。夏季進路対策講座では、上級学校の話を聴く機会もあり、進路意識の向上に結びついた。3年生への指導体制の構築ができた。
		③卒業後の進路に関する情報を、生徒や保護者に提供するとともに、本校の進路実績の広報を行う。	2		△	年次ごとのPTA集会で、進路に関する情報を提供した。今後、パンフレットや学校HPに載せる情報に加えて、進路情報提示の場を増やしていきたい。			年次ごとのPTA集会で、進路に関する情報を提供した。今後、パンフレットや学校HPに載せる情報に加えて、進路情報提示の場を増やしていきたい。
		④3年学級担任との連携を密にすることで12月までの進路実現を目指す。 (12月決定率90%を目標)	3		△	結果待ちの生徒を含め、16名の生徒の進路が決定していない。今後、残された生徒の進路実現のために、各部、年次、全職員との連携や様々な関係機関との連携を強化していきたい。			結果待ちの生徒を含め、16名の生徒の進路が決定していない。今後、残された生徒の進路実現のために、各部、年次、全職員との連携や様々な関係機関との連携を強化していきたい。

④教育相談部

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)			改善 (A)			
			評価項目	評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果	指標別	総合	結果の分析考察・課題改善案
教育相談活動や人権教育を通して、生徒の自己肯定感を高め、自己決定能力を引き出していくような支援を組織的に行う。	(1) 各年次・系列との間で生徒の情報交換を密にし、保護者や各校務分掌とも連携しながら中途退学対策に努める。将来の夢や志を持たせ、困難な場面を乗り越える強さを育成する。	①各年次会に出会い、情報を共有する。	3	3	成果	年次会に出会い、学年毎の情報や保健室からの情報を共有し、生徒の状況を部全体で把握した。定期的にいじめ不登校対策委員会を実施し対応策を協議し改善に努めた。	3	3	年次会に出会い、学年毎の情報や保健室からの情報を共有し、生徒の状況を部全体で把握した。定期的にいじめ不登校対策委員会を実施し対応策を協議し改善に努めた。
		②保健室と情報を共有する。	4		課題	特に2学期は、不登校生徒や問題行動も多かった。抱える問題も多岐にわたり、解決には至らず進路変更する生徒も多かった。年次と連携し望ましい支援に繋げたい。			特に2学期は、不登校生徒や問題行動も多かった。抱える問題も多岐にわたり、解決には至らず進路変更する生徒も多かった。年次と連携し望ましい支援に繋げたい。
		③教育相談室に来室した生徒や保護者について年次等と情報を共有する。	3		成果	・職員不在になる時間帯もあり、生徒の対応が難いこともあった。また、授業で学習室を使っている場合、壁が薄く相談室での会話や電話の内容が伝わってしまう恐れもあった。			・職員不在になる時間帯もあり、生徒の対応が難いこともあった。また、授業で学習室を使っている場合、壁が薄く相談室での会話や電話の内容が伝わってしまう恐れもあった。
		④定期的にいじめ・不登校対策委員会を実施し、早めに手立て(個人面談等)を打ちながら、中途退学者を減らす。	3		課題	定期的にいじめ・不登校対策委員会を実施し、早めに手立て(個人面談等)を打ちながら、中途退学者を減らす。			定期的にいじめ・不登校対策委員会を実施し、早めに手立て(個人面談等)を打ちながら、中途退学者を減らす。
	(2) 学校生活での困り感・いじめ・不登校等の実態を把握し、定期的に聞く「いじめ・不登校対策委員会」においては、該当生徒について関係職員の共通理解を図り、その支援策を協議する。	①定期的に学校生活・いじめ等に関するアンケートを実施する。	4		成果	先生方の御協力の下、定期的にいじめアンケート及びいじめ・不登校委員会を実施することができた。サポート委員会を実施し、気になる生徒への配慮等について、進路決定も見据えて検討している。(3学期に相談会を予定中)	3	3	先生方の御協力の下、定期的にいじめアンケート及びいじめ・不登校委員会を実施することができた。サポート委員会を実施し、気になる生徒への配慮等について、進路決定も見据えて検討している。(3学期に相談会を予定中)
		②いじめ・不登校対策委員会を開催し、いじめ・不登校等の問題の情報共有と早期解決を図る。	3		課題	いじめ・不登校対策委員会で対応を検討しても、スムーズに解決に結びつかず長期化しているケースもある。支援が必要な生徒が年々増加しており、十分な対応ができない。難しさを感じる。			いじめ・不登校対策委員会で対応を検討しても、スムーズに解決に結びつかず長期化しているケースもある。支援が必要な生徒が年々増加しており、十分な対応ができない。難しさを感じる。
		③年次会等からの情報をもとに学期毎(1~2回)にサポート委員会を開き、配慮すべき生徒の把握と共通理解を図る。必要に応じケース会を実施し対応を検討する。	3		成果	今年度から、人権担当者が教育相談部に配置され情報交換がしやすくなった。各学年の意向も取り入れながら統一LHRで人権の問題を取り上げることができた。次年度は毎年応募している「生命の声」の取組も統一LHRで扱ってみてもよい。			今年度から、人権担当者が教育相談部に配置され情報交換がしやすくなった。各学年の意向も取り入れながら統一LHRで人権の問題を取り上げることができた。次年度は毎年応募している「生命の声」の取組も統一LHRで扱ってみてもよい。
	(3) 人権学習を通して、生徒間の望ましい人間関係をつくるとともに、同和問題をはじめ様々な人権問題を学ぶことによって人権意識を向上させ、その解決に向けて主体的に活動する。	①1・2年次に対しては、「1学期に「人間関係づくり」、3年次には進路の「統一応募用紙」に関しての人権学習を実施する。	3		課題	規範意識、人権感覚が希薄な生徒が多く、生徒間トラブルも多かった。生徒達への効果的な働きかけが課題である。	3	3	規範意識、人権感覚が希薄な生徒が多く、生徒間トラブルも多かった。生徒達への効果的な働きかけが課題である。
		②全校生徒に対し学期に1回、適切な内容を検討し統一人権学習を実施する。	3		成果	・例年以上に1年生に関する中学校との情報の引き継ぎ、保護者からの面談希望者が多く、多くの生徒情報を得ることができ職員研修で共有できた。			・例年以上に1年生に関する中学校との情報の引き継ぎ、保護者からの面談希望者が多く、多くの生徒情報を得ることができ職員研修で共有できた。
		③1・2年次に対しては、「1学期に「人間関係づくり」、3年次には進路の「統一応募用紙」に関しての人権学習を実施する。	3		課題	・S・Cが定期的に来校してくださり、生徒理解、病院受診に繋がったケースもあった。SSW、各種専門機関の方々と連携しケース会を実施した事案もあった。			・S・Cが定期的に来校してくださり、生徒理解、病院受診に繋がったケースもあった。SSW、各種専門機関の方々と連携しケース会を実施した事案もあった。
	(4) 「特別支援教育」に関する職員の理解促進を図るとともに、支援が必要な生徒については、人格と個性の多様性を尊重し、卒業後を見据えて保護者や専門機関と協働しながら支援していく。	①職員会議で、特別支援が必要な生徒に関しての情報を提示し、全職員の共通理解を図る。(4月に全職員に対して、生徒情報連絡会を実施する。)	4		成果	・専門機関との連携を途切れさせないために、今後、新入生の保護者と面談等を行う際には、高校生活中に専門機関への相談や連携を希望するかの意思確認をし、卒業後の進路を見据えた連携ができるよう改善する必要がある。	2	2	・専門機関との連携を途切れさせないために、今後、新入生の保護者と面談等を行う際には、高校生活中に専門機関への相談や連携を希望するかの意思確認をし、卒業後の進路を見据えた連携ができるよう改善する必要がある。
		②新入生保護者へアンケートを配布・回収。早期に生徒の情報収集を行い、担任へつなぐ。	4		課題	・S・C、SSWの待機場所、机、カウンセリングの場所も課題。			・S・C、SSWの待機場所、机、カウンセリングの場所も課題。
		③保護者、専門機関(スクールカウンセラー、障がい者就業・生活支援センター、スクールソーシャルワーカー、チーフコーディネーター、病院、福祉等)、進路支援部との連携をとりながら対応していく。(サポート委員会)	3		成果	回数は多くはないが、定期的に行うことができた。1~2月にあと2回実施予定。継続して参加し、学年が上がるにつれ効果が見られている生徒もいる。			回数は多くはないが、定期的に行うことができた。1~2月にあと2回実施予定。継続して参加し、学年が上がるにつれ効果が見られている生徒もいる。
	(5) コミュニケーション能力や他者理解、自己受容、傾聴などのトレーニングを行う中で、人と関わる喜びや思ひや思ひやふれる関係をつくるための「ピア・サポート活動」の実践に向けて研究を深める。数値目標…	①ピア・サポート養成講座を年6回実施する。	3		課題	希望する一部の生徒に対して、ライフスキルを身につける機会(トレーニング)や居場所にはなっているものの見直す必要性を感じる。様々な教育活動と連動させる等、より効果的な実施方法と広報活動を再検討し、望ましい人間作りに繋がるような活動にしたい。	2	2	希望する一部の生徒に対して、ライフスキルを身につける機会(トレーニング)や居場所にはなっているものの見直す必要性を感じる。様々な教育活動と連動させる等、より効果的な実施方法と広報活動を再検討し、望ましい人間作りに繋がるような活動にしたい。
		②主に人間関係づくりに自信がない生徒をこの講座に参加させ、自己肯定感や他者理解、自己開示、コミュニケーション能力などを育成する。	2		課題	希望する一部の生徒に対して、ライフスキルを身につける機会(トレーニング)や居場所にはなっているものの見直す必要性を感じる。様々な教育活動と連動させる等、より効果的な実施方法と広報活動を再検討し、望ましい人間作りに繋がるような活動にしたい。			希望する一部の生徒に対して、ライフスキルを身につける機会(トレーニング)や居場所にはなっているものの見直す必要性を感じる。様々な教育活動と連動させる等、より効果的な実施方法と広報活動を再検討し、望ましい人間作りに繋がるような活動にしたい。

⑤環境保健部

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)			改善 (A)
			数値結果	指標別	総合	
1. 生徒・職員の美化意識の向上と美化活動への積極的な参加をはかる。	(1) 清掃をきちんと取り組む態度の育成。 ※環境美化重点目標を各クラスに掲示して意識させる。 (満足する職員・生徒が90%以上)	①通常清掃時の取り組み強化と教室美化に努める。 ※定期テスト1週間前を「清掃強化週間」とする。 (美化委員生徒の評価8割以上)	4	3		○ 「清掃強化週間」を年6回実施した。正直、取り組み状況が良くなかったとは言えないが、清掃に対する意識の持ちは変わってきたと思われる。ほとんどの生徒がしっかりと清掃に取り組んでいるが、指導も必要な状態と思われる。
		②清掃時間の始めの会(確認)と終わりの会(反省)を行い、清掃意義の理解と意識を高める。	3			△ 初めの会と終わりの会はきちんと実施できていた。集合に遅れる生徒が固定化していた。清掃時間一杯まで活動することが曖昧になっていた。
		③通常清掃時トイレ清掃の強化とトイレの使い方・トイレ美化の強化を図る。 (トイレットペーパーの使い方、リバウンド並べ、ゴミの管理など)	2			● きれいに使う、リバウンド並べることに関しては、職員の呼びかけやポスター作成などの成果が、概ね好だった。しかし、授業中にトイレで過ごす生徒もいるなど、トイレが隠れる場所になっていることが気になる(来年度の課題)。
		④H.R教室のゴミ箱撤去による、自分で出したゴミは自分で持ち帰ることの呼びかけ。 (環境保健部職員の評価8割以上)	3			△ ゴミ箱を教室に置かず、自分のゴミは自分で持ち帰ることは定着してきている。しかし、ゴミ入用の紙箱に、本来なら捨てるべきではないゴミが捨ててある、ペットボトルなど自分のゴミが廊下に多かったなど、さらなる指導も必要を感じた。
	(2) ゴミが落ちてない環境作りと正確な分別。落ちているゴミを拾う態度の育成。	①美化委員による定期点検とポスターによる呼びかけ。(美化委員の満足度90%以上、各種委員会で調査)	4	3		○ 今年度も保健委員・美化委員・風紀委員のポスター作成を実施した。好評であった。
		②学習環境が整った教室を目指す。(机の並び、ロッカーや机の中の整理整頓、落書き防止、持ち帰り)	3			△ 概ね良好であったが、廊下のロッカーの整理整頓をもう少し呼びかける必要があった。来年度は「整理整頓掃除強化週間」などの仕掛けや美化委員会活動の活性化を図りたい。
		③清掃用具の適切な配分と施設整備の充実。 (環境保健部職員の評価9割以上)	4			○ 定期的ではないが、しっかりと点検ができた。
		④係職員による定期的な見回り、校内の環境整備。	4			○ 2学期に施設や環境面の調査を行った。予算の問題もあるのですが、事務室と連携して改善してきた。農業の先生方を中心に、定期的に校内の草刈りがてきた。
	(4) 健康診断の徹底及び改善指導に努める。 (健康診断の受診率100%)	①事前連絡や欠席者への健診指導を徹底する。	4	4		○ 担任や管理職としっかり連携して取り組めた。
		②健康診断後すみやかに結果通知を行い、必要な検査・医療を受けさせるように努める。長期休業前に再度通知を行う。	4			○ 4月の「健康診断の日」は、全職員協力の下、大きな問題もなく実施できた。
		③学校生活における保健・安全指導を徹底する。 (保健委員の満足度90%以上、各種委員会で調査)	3			△ アルコール消毒の補充・石けんの取り替えなど、生徒から自主的に動くことが少なかった。2学期後半からはインフルエンザ対策も必要となり、教室の換気を呼びかけた。今後も呼びかけたい。
		④部活動生を中心にけが予防や救急処置の指導を行う。	4			○ 予期せぬ行動による大ケガや、部活動でのケガが数ヶになったが、臨機応変に対応できた。予防対策をしっかりすべきと感じた。
		⑤毎日の健康観察や保健室来室時、行事前の健康調査で自分の心身に关心を持たせる。	3			△ 連呼吸生徒が多かったため、担任との連携など、健康観察簿内容の把握が難しかった。保健だよりを中心、健康について心を持つ内容を多く載せた。来年度も継続したい。
		⑥薬物乱用防止教室と性教育講座を実施し、正しい知識の習得と健康で安全な個人生活・社会生活を送るための意識を高める。 (反省調査の実施、職員の満足度80%以上)	4			○ 7月に性教育講座、8月に薬物乱用防止教室を実施した。外部との連携がしっかりできていた。感想など生徒はしっかりと取り組めた。
		⑦毎回全校生徒を対象に購入希望調査と図書館利用アンケートを実施する。	3			
		⑧毎年1回の書庫整理または蔵書点検を実施する。	3			
2. 生徒及び職員の心身の健康の保持増進を図ると共に、主体的に健康・安全な生活を送ることができる実践力を育てる	(5) 学校生活における保健・安全指導を徹底する。 (満足する職員・生徒が90%以上)	①健康観察の実施を徹底し、感染症の集団発生及び、長期欠席者の早期発見に努め、保健委員などへの指導充実を図る。	3	3		○ 読書アンケートで「読書が好き」「やや好き」と答えた生徒は合計5割を超えていた。全職員で読書のサポートもしているが、全員で読書をする雰囲気もできない現状もあるので、電子図書の導入も検討したい。
		②部活動を中心けが予防や救急処置の指導を行う。	4			○ 毎日10人くらいの来館者はいるが、冬になり来館者が減っている。
		③毎回全校生徒を対象に購入希望調査を実施し、また特別支援の観点からも図書資料の充実を図る。	4			○ 職員向け購入希望調査は1学期のみ行い、新たなジャンルの図書購入につながった。
		④毎年2回全校生徒を対象に購入希望調査と図書館利用アンケートを実施する。	3			○ 図書のパソコンとソフトを新しくすることにお金がかかるため、生徒向け購入希望調査は1回だけ行った。
		⑤毎年1回の書庫整理または蔵書点検を実施する。	3			○ 随時書庫整理は行っているが長年蔵書点検を行っていないので、来年度行えるよう他校の協力も得たい。
		⑥文書にQRコードを貼り付け、保護者が出欠希望を出しやすいように工夫した。	3			○ PTA総会の参加率は2次集会を含め62%となつたが、PTA総会自体の参加率は38%に留まり、PTA総会の参加率アップのための何らかの工夫が必要である。
		⑦PTA三役会、PTAミニバレー大会、みどりのセミナー、ロードレース大会での炊き出し支援を行った。	2			△ 3学期(3月1日)に発行予定である原稿依頼等、今後進めて行きたい。
		⑧校長・教頭・吉田先生の協力の下、現時点で2回の研修を実施した。2回目の防災食セミナーでは親子で参加する姿もあった。2回のセミナーとも参加した保護者から大好評であった。	3			○ 校長・教頭・吉田先生の協力の下、現時点で2回の研修を実施した。2回目の防災食セミナーでは親子で参加する姿もあった。2回のセミナーとも参加した保護者から大好評であった。
		⑨各部門での充実した活動までは至らなかったが、ロードレース大会での炊き出し支援に協力して頂いた方々の殆どが学級役員であった。役員の自覚を持って協力して頂いていると感じた。	2			△ 各部門での充実した活動までは至らなかったが、ロードレース大会での炊き出し支援に協力して頂いた方々の殆どが学級役員であった。役員の自覚を持って協力して頂いていると感じた。
		⑩PTA行事の案内文書の配布を前月中に行い、参加を促す。	3			○ 文書にQRコードを貼り付け、保護者が出欠希望を出しやすいように工夫した。
		⑪PTA各種専門部会による研修会を充実させることで、参加者の輪を広げる工夫に努める。	3			○ PTA総会の参加率は2次集会を含め62%となつたが、PTA総会自体の参加率は38%に留まり、PTA総会の参加率アップのための何らかの工夫が必要である。

⑥図書渉外部

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)			改善 (A)
			数値結果	指標別	総合	
1. 学習拠点となる図書館づくり	(1) 読書の推進と利用率を高める工夫。 ・来館者数 目標 1日10人以上 ・貸出冊数 目標 1日10人以上	①学期初めに職員間で「朝読書」の共通理解を図り、また多様な生徒への支援を行い、県の図書アンケートで「読書が好き」「やや好き」と回答する生徒が合計5割を超えるような取り組みをする。	3	3		○ 読書アンケートで「読書が好き」「やや好き」と答えた生徒は合計5割を超えていた。全職員で読書のサポートもしているが、全員で読書をする雰囲気もできない現状もあるので、電子図書の導入も検討したい。
		②図書委員に来館者の記録・統計をとらせ、来館者1日10人以上を目指す。	3			○ 毎日10人くらいの来館者はいるが、冬になり来館者が減っている。
		③学期1回全職員を対象に購入希望調査を実施し、また特別支援の観点からも図書資料の充実を図る。	4			○ 職員向け購入希望調査は1学期のみ行い、新たなジャンルの図書購入につながった。
		④毎年2回全校生徒を対象に購入希望調査と図書館利用アンケートを実施する。	3			○ 図書のパソコンとソフトを新しくすることにお金がかかるため、生徒向け購入希望調査は1回だけ行った。
	(2) 「使える図書館」を目指して	⑤毎年1回の書庫整理または蔵書点検を実施する。	3	3		○ 随時書庫整理は行っているが長年蔵書点検を行っていないので、来年度行えるよう他校の協力も得たい。
		⑥文書にQRコードを貼り付け、保護者が出欠希望を出しやすいように工夫した。	3			○ 文書にQRコードを貼り付け、保護者が出欠希望を出しやすいように工夫した。
		⑦PTA総会の参加率は2次集会を含め62%となつたが、PTA総会自体の参加率は38%に留まり、PTA総会の参加率アップのための何らかの工夫が必要である。	2			△ 3学期(3月1日)に発行予定である原稿依頼等、今後進めて行きたい。
		⑧PTA三役会、PTAミニバレー大会、みどりのセミナー、ロードレース大会での炊き出し支援を行った。	3			○ PTA三役会、PTAミニバレー大会、みどりのセミナー、ロードレース大会での炊き出し支援を行った。
		⑨校長・教頭・吉田先生の協力の下、現時点で2回の研修を実施した。2回目の防災食セミナーでは親子で参加する姿もあった。2回のセミナーとも参加した保護者から大好評であった。	3			○ 校長・教頭・吉田先生の協力の下、現時点で2回の研修を実施した。2回目の防災食セミナーでは親子で参加する姿もあった。2回のセミナーとも参加した保護者から大好評であった。
		⑩各部門での充実した活動までは至らなかったが、ロードレース大会での炊き出し支援に協力して頂いた方々の殆どが学級役員であった。役員の自覚を持って協力して頂いていると感じた。	2			△ 各部門での充実した活動までは至らなかったが、ロードレース大会での炊き出し支援に協力して頂いた方々の殆どが学級役員であった。役員の自覚を持って協力して頂いていると感じた。
		⑪PTA行事の案内文書の配布を前月中に行い、参加を促す。	3			○ 文書にQRコードを貼り付け、保護者が出欠希望を出しやすいように工夫した。
		⑫PTA各種専門部会による研修会を充実させることで、参加者の輪を広げる工夫に努める。	3			○ PTA総会の参加率は2次集会を含め62%となつたが、PTA総会自体の参加率は38%に留まり、PTA総会の参加率アップのための何らかの工夫が必要である。

⑦事務部

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)			改善 (A)
			数値結果	指標別	総合	
1. 学習指導の充実と進路希望の実現	学習指導の充実	①ICT活用の推進をはじめとする学習活動全般に対して予算からバックアップする。	4	4		○ 物品費については、真に必要な物については取得し、予算が不足する場合は、予算要求を行い、予算確保に努めた。
		②限られた予算を有効に使うため、メリハリのある予算執行をする。	4			○ 予算の執行状況を見ながら、計画的な予算執行を行っている。
		③固定支出(光熱水費)、用紙・マスター・インクの使用量の3%削減を目標とする。	3			△ 電気・ガス・マスター・インクはクリアできたが、水道・用紙は達成できていない。今後も省エネ、省資源の意識を高く持ち、使用していない部屋の消灯等を徹底する必要がある。
		④業務に専念出来るよう、職場環境を整える。	3			△ 業務に必要な物購入については、概ね対応できたが、施設整備関連で対応できていない部分があるため、予算の確保等努力している。
	2. 教育活動における事故の未然防止	⑤職員と日常的に情報交換を行うことで、現在不足していることが何かを把握する。	4			△ 概ねできていたが、事務部からもっと積極的に行う必要があった。
		⑥安全に部活動を実施するために、施設整備に尽力する。	3			△ 一部予算要求した件で予算が付かなかった。今後も整備が必要なものは予算確保に努める。
		⑦危険箇所を早期に発見し、予算要求を速やかに行い、早期に修繕する。	4			○ 緊急性のある修繕(雨漏り等)は早期に対応した。
		⑧日頃からリスクとなる要因を洗い出す。	4			△ 懸案事項として整理し、リスクの把握を行っているが、職員からの情報提供により把握することもあった。
	3. 清掃をはじめとする環境美化活動の充実	⑨職員と日常的に情報交換を行うことで、現在不足していることが何かを把握する。	4			△ 概ねできていたが、事務部からもっと積極的に行う必要があった。
		⑩産業廃棄物や一般廃棄物等、定期的に廃棄する。	4			○ 今後執行予定。
		⑪校内の美化に努め、常にきれいな状態を保つ。	4			○ 気づいた時には、校内美化に努めた。
		⑫丁寧な窓口対応・電話応対に努める。	5			○ 学校の窓口として、的確に対応した。
	4. 保護者や地域との連携	⑬計画的・戦略的な広報活動の充実	4	4		△ 防災メール未登録者もいるため、こちらからの情報発信に対する反応が期待するほどではなかった。
		⑭日々の連絡体制を構築する。	4			

⑧農務部

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)			改善 (A)
			数値結果	指標別	総合	
地域に根ざした農業教育と生徒一人ひとりの興味関心に基づいた農業教育を推進する体制を整備強化する。	(1) 総合学科である本校ならではの農業教育を推進する。	①1年次生に系列体験や産業社会と人間等を通じて、農業・食品加工の魅力を伝える。	3	3	△	系列体験等を通して栽培ビジネス系列および食品加工系列の魅力を伝えることができた。今後は、担い手育成協議会の予算を活用し、各年次生徒へ魅力発信の機会を増やしていただきたい。
		②地域・関係機関との連携を強化し、各種事業の充実を図る。	4		○	門川町ふるさと納税返礼品への協力、フィンガーライム栽培に関する役場や生産者、宮崎大学との連携など、多方面との連携を充実させることができた。台風襲来の影響で第4回いきい町フェスティバルin門川は不参加。産業教育に向け生徒への教育効果を更に高めるために、色々な面で生徒の事前指導を徹底していただきたい。
		③資格取得推進する。	3		△	危険物取扱試験は受験希望を募ったが受験生徒なし。昨年、台風による影響で中止となった小型車両系建設機械資格は、今年度は無事終了し全員取得することができた。次年度以降専門性を生かした資格取得を目指して進路の一助にしていただきたい。一方、教科「情報」担当職員の協力を仰ぎながらワープロ・情報処理検定に挑戦させ成績を出している。農業技術検定は結果がまだ農場の適正規模を検討し、整理していくと共に教育課程を踏まえ特別会計予算の編成をしていくたい。ICT機器を利用した授業力の向上を目指すことが徐々に出来るようになってきた。一方で県下農業開拓高校に導入されたドローンや温室管理システム、ラジコン草刈り機などライセンスの更新や使用頻度、授業との関連性を再検討することが課題として挙げられる。
	(2) 農業系列の特色ある教育を推進するためバランスのとれた農業教育の推進と、円滑な農場運営を構築する。	①地域を含め宮崎の農業に即した学習内容や農場の適性規模について整理し、時代の変化に対応したカリキュラムと特別会計予算を編成する。また、ICT機器を利用した授業力の向上を目指す。	4	3	△	農場の適正規模を検討し、整理していくと共に教育課程を踏まえ特別会計予算の編成をしていくたい。ICT機器を利用した授業力の向上を目指すことが徐々に出来るようになってきた。一方で県下農業開拓高校に導入されたドローンや温室管理システム、ラジコン草刈り機などライセンスの更新や使用頻度、授業との関連性を再検討することが課題として挙げられる。
		②DX、スマート農業に関する職員向けの研修を実施する。また、農場の運営を通して儲かる農業の経験を活用し、生徒の学習の充実を図る。	3		△	外部での研修を基本として今後、さらに本校職員や生徒向けの研修も計画・実施していただきたい。
		③農場を活用し、生徒の学習の充実を図る。(認証教育(GAP・HACCP)の充実)	3		○△	実習等で実施はしているが、認証に向けての活動はしていない。校内の環境を十分に活用し、認証教育の充実についての可能性を検討していただきたい。
	(3) 2系列の一体感をもたせた指導体制を確立し、学習や生活指導全般において連携を強化する。	①共通の意識を持たせるため、2系列合同の集会を実施する。	3	3	△	自然学級による農業系列生徒が各学級に混在し、調整ができる2系列合同の集会を実施するまでには至らなかった。次年度以降、自然学級の中でも農業系列の共通意識の養成のために計画して農業クラブの研修会等を計画し、生徒主体の集会の実施を検討していただきたい。
		②農耕関連集会運営は、農業クラブ役員で行わせ、リーダーとしての資質を育てる。	3		△	農業クラブの研修会等を計画し、生徒主体の集会の実施を検討していただきたい。
		③農業クラブ員の活動機会を広げ、その運営をサポートし生徒の農業クラブに対する意識を高める。	3		△	月1回の各種委員会を有効的に活用し行事の企画・運営をさせていくことで農業クラブの意識を高めていただきたい。
	(4) 農業クラブ員の活動機会を広げ、その運営をサポートし生徒の農業クラブに対する意識を高める。	①月1回の各種委員会で役員による行事の企画・運営をさせていくことでサポートする。	3	3	△	農業クラブの活動を通して興味・関心を持たせる。今年度は農業クラブ新聞の発行をさせてできなかった。農業クラブの活動(地域との活動等)を増やしていく。
		②農業クラブ活動を活性化(プロジェクト・意見発表等)させ、農業に興味・関心を持たせる。	3		△	生徒の頑張りは大いに見られたが、優秀賞を取るまでは至らなかった。全国大会に出場するための心構えや意義を自覚させ、本校からも良い結果が出るように農業部職員全体で指導体制の構築
		③全国農業クラブ大会農業鑑定競技において入賞を目指す。(優秀賞以上)	2		△	

⑨福祉科

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)			改善 (A)
			数値結果	指標別	総合	
福祉に関する基本的・専門的な知識と技術を習得させ、社会福祉の充実に寄与できる実践力を身につけさせ、地域を愛する心を持った福祉の担い手(人財)の育成を目指す。	(1) 将来の福祉の担い手(人財)として必要な基本的生活習慣や礼儀作法を身につけさせる。	①S.H.Rや授業等での生徒とのふれあいを通し、日常生活指導を徹底する。	3	3	△	日常生活における服装指導や挨拶、言葉遣い等、施設実習や社会に出たときのマナー指導を徹底することが出来なかった。
		②介護実習報告やフェニックスタイムを活用し、生徒による発表や継続の連携を通して、学科の団結力を強化する。	4		○	実習の最後指導や福祉タイムを活用し、検定や国家試験の教えあい等を行い、継の繋がりを意識した取り組みを行うことができ、学生を超えた学びにつながった。
		③学科職員と生徒との面談を各学年1回行い、生徒との信頼関係を築く。	2		×	毎年2学期に担任・副担任だけでなく、学科全体で福祉科の生徒たちに面談等を行い、サポート体制を強化している。しかし職員の体制も変化し、クラスを超えた生徒一人一人の面談が難しかった。
	(2) 専門的知識・技術の定着を目標とした授業を実践し、学習の成果をあげる。	①地域の外部講師による講義等によって生徒の意識を高める。	4	3	○	各専門職の講師の方々に来ていただき、福祉の専門性を高めることができた。実施後は、教わったことを介護実習の中で活用したり、生徒の進路意識に変化が見られた。
		②専門的知識・技術の定着と向上のために確認テストや学期ごとに実技テスト等を実施する。	4		○	感染症対策に留意しながら、通常の介護技術が行えるようになった。介護技術コンテストについては、学科全体で参観し、介護技術の専門性を高めることができた。県大会では、最優秀賞を受賞し、九州大会に出場し、さらに専門的知識と介護技術を思考し、知識や技術を深めることにつれて、これまでの各系列の方法の名残があり、職員間で統一した動きができなかったところもある。今後、年次・系列で連携を強化し統一した指導ができるようになると、受け持つ仕事のキャリアロード、キャリアロードミニは生徒やクラスにより活用に差があるようだ。HR担当等へ依頼し活用の検証を行なう年次でつなげたい。
		③教科間で情報交換を行い、教科指導力の向上に努める。	3		○	毎年恒例で実施している九州医療科学大学での模試を2、3年合同で実施した。学校とは違う環境で、国家試験と同じ時間帯で取り組むことで、国家試験を更に意識した模試を実施することができた。また、国対策としてゼミを早期から開始し、少人数で対策を行うことで、意識を高め
	(3) 介護福祉士国家試験の合格率を上げる。	①介護福祉検定の合格率70%を目標とする。		3	○	12月14日(土)に実施した。合格発表は1月上旬。
		②介護福祉士国家試験の合格率100%を目標とする。			○	令和7年1月26日(日)に受験。
		③模擬試験の結果を分析し、授業改善を図り、生徒の学力をあげることを目指す。			○	令和7年3月25日(火)14時 合格発表

⑩総合学科

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)			改善 (A)
			数値結果	指標別	総合	
多様な生徒の持つ様々な能力・適性を活かし、生徒の活躍の場を広げるための多様な学びの種類と機会の設定。	将来の職業選択を視野にした自己の進路への自覚を深めさせる学習の重視	①次年「産業社会と人間」の授業の年次での計画的な実施と教材の開発。	4	3	○	担当者による丁寧な指導計画のもと実施された。今年度は担任が授業を受け持てないクラスもあった。産社本来の目的、意義を考えた履修のありかたについて検討が必要。
		②次年「インターンシップ」の年次・系列で連携した実施と事前・事後指導の充実。	3		△	系列の棒を外して初めての実施。事前・事後指導では担任が生徒の動きを確認でき、生徒同士も実習に向け同じ動きをすることで意識や興味を高めることができた。また、配慮の必要な生徒の事業所選定においては担任が保護者と連携し次年度の丁寧な対応がなされた。事後の発表の機会は1年次の参加もあり学習効果が高まった。事業所選定や依頼、事業所担当者の動きについて、これまでの各系列の方法の名残があり、職員間で統一した動きができなかったところもある。今後、年次・系列で連携を強化し統一した指導ができるようになると、受け持つ仕事のキャリアロード、キャリアロードミニは生徒やクラスにより活用に差があるようだ。HR担当等へ依頼し活用の検証を行なう年次でつなげたい。
		③HR活動や進路学習等において門川キャリアログの積極的な活用。	3		△	地域との連携活動は長く続くことが大切で将来の見通しを持って、企画すべき。誰が担当しても続けられるよう(どの系列/どの部署)がどこ何をやっているか全職員で共通理解できる一覧の作成を急ぎたい。
	生徒の個性や特性を活かしながら、学習を通して学ぶことの楽しさや成就感を体験させる教育活動の展開	①系列の学びを活かした地域連携活動や町内の小中学校と連携した取り組みの実践。	4	3	△	産社から始まりリバースタッフ(デュアル)→経営探査の研究に至る学びのプロセス(PDC Aサイクル)を生徒・職員に具体的に示し、そのプロセスの中での学習成果発表会の位置と意義が確認できるようになる。
		②学習成果発表会でのポスターセッション(総探・デュアル・産社)等の実施により生徒の主体的参加と各系列の学びの共有。			△	昨年度の反省より時間割変更を行わない形で(準備は系列の授業内で)準備期間を設けた。生徒間では、縦のつながりができたり、外部の方との交流にやりがいを感じたという声を多く聞いた(キャリアログ提出より)。一方、職員間では、全校での取り組みにする背景や意図を昨年度より説明させていただいているがコンセンサスを得て実施しているという状況はない。皆が納得した形で実施できるよう生徒・職員アンケートをふまえ、別途、全休での検証が必要であると考えた。
		③「門高学びのフェスティバル」において、系列内・系列間の連携を深める取り組みの企画・運営。	3		△	生徒の希望を尊重しつつ、質の高い教育活動が展開できる環境を確保するため(系列の人数バランス)1年次会で情報交換しながら進められた。
	総合学科の特徴を活かした指導体制づくり	①系列体験の充実と系列検討会議の実施	4	3	○	全国・九州の総合学科大会で様々な情報を収集し校内で報告の機会を得た。また、夏の総合学科部会、本庄高校の実践研究発表大会にも多くの先生方にご参加いただき、全職員で総合学科の在り方について考える契機となった。来年度は、九州大会の開催も本県である。系列に連携する行事のとりまとめに終わらない、SO-GO!の組織としての活動の在り方を明確にしなければならない。(従来の校務分掌や係との違いや関連)
		②「SO-GO!」における、総合学科の在り方の検討。	3		△	

⑪ 1年次

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)	改善 (A)		
評価項目	評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果	指標別	総合	所考査・課題改善案
「当たり前のことが当たり前にできる生徒」の育成を図る。 (生徒一人ひとりに門川高校の生徒としての自觉や誇りを持たせ、自己肯定感を高め、将来に向けての目標を持たせる。) 1. 自分を理解するチカラ 3. 考えるチカラ 5. コミュニケーション力	(1) 家庭との連携を強化し生徒理解に努めるとともに、生徒の自立を目指した生活指導を行う。	①家庭との連携を図る。 ・家庭訪問の実施し、生徒理解に努める。 ・保護者との情報交換を積極的に行い、家庭の状況を把握する。	3	2	2	・全生徒の家庭訪問、もしくは三者面談を実施し、生徒理解につなげることができた。 ・Google classroomを活用して、保護者へ生徒の様子を伝えることが出来た。 ・提出物の回収が煩雑で担任の負担が大きい。提出物をデジタル化してもらえないだろうか。
		②正しい制服着用の常時指導を行う。	2			・毎朝、全クラスで服装指導をするなど、学校全体で指導体制の明確化が必要である。 ・口頭指導での限界を感じる
		③生活指導を徹底する。 ・無断欠席・遅刻・早退の予防に向けた指導。 ・問題行動予防のための常時指導。 ・挨拶、礼法指導の徹底。 ・ペル着(1分前)の徹底	2			・遅刻・欠席が固定化している。 ・保護者への連絡をこまめにしているが、改善の兆しが見られない。 ・問題行動が多く、その対応に追われる日々であった。常時、あらゆる立場から、先生方が指導や呼びかけを行っているが効果が現れない。 ・学校全体で、校則の検討や、生活面の指導の在り方を図れないものか。 ・トイレや教室の老朽化、鍵ありロッカーの整備等、生活環境の整備が必要である。
		④ICT端末を有効に活用し、日常の教科指導の補填ながら基礎学力の定着や学習に対する意欲を喚起する。	3	2	2	・タブレットの活用において、授業に関係のない使用も見られ、生徒によっては学習効果が薄まる道具になりつつある。配布する時点での利用の仕方を徹底的に行う必要がある。
		⑤テスト前後の学習指導により学習に対する意欲喚起を目指す。(欠点保有0、全員進級)	2			・テスト前は年次で、欠点保有者や欠課オーバーの生徒を呼び、指導を行った。生徒の意識に繋がり、欠点保有者が減少しつつある。 ・学習に対する意欲を失っている生徒や、ある程度成績を残す生徒への指導に工夫が必要である。
		⑥こまめな声かけやサポートにより、提出物の期限を守らせる指導を行い、基礎学力の向上や学習習慣の確率を目指す。	2			・提出物の期限が守れない生徒が固定化されている。 ・自宅で学習するという概念がない生徒が多い。
		⑦各行事や授業、LHR等におけるキャリア教育の充実を図り、自己理解を深め、望ましい職業観を認識させる。	2			・Workは産業社会と人間の授業で活用した。 ・LogはICT化したことで活用の機会が減った。
		⑧SO-GOと連携して「産業社会と人間」の授業を充実させる。	3			・先を見通したスケジュール管理能力を身につけさせる必要がある。
		⑨福祉科と連携して介護実習等を通して福祉科生徒の職業意識を高める。	3	3	3	・産業社会と人間については、キャリアを見通した授業を展開することができた。 ・SO-GOや進路支援部との連携を密にし、進路意識を高める工夫が必要である。
		⑩温かい人間関係づくりや、委員会・清掃活動等を通じて所属意識、自己肯定感や環境を大切にする気持ちを高める。	3			・12回間の介護実習の経験から、生徒自身も成長を感じられる実習となつた。 ・学科と連携し、日頃から挨拶や返事など基本的な行動習慣を意識して指導していく必要性を感じた。
		⑪クラスや年次での活動において一人一役の場面を設け、生徒が協力したり、活躍できる場面づくりを行う。	3			・学校行事や年次集会で、発表する場を設け、様々な生徒に活躍の場を作ることができた。 ・委員会活動とクラスの活動を上手く活用し、自己用感を高められるような働きかけを行うことができた。
		⑫生徒とともに清掃活動に取り組み、奉仕の心を育てる。日頃から教室を整理し、学習環境を整えさせ	2			・教室環境の整備は、日々声かけを行い、常に学習に取り組める環境づくりに努めた。 ・教室や廊下、公共のものをきれいに使う意識を育てたい。 ・清掃時間の指導(人員確認)を徹底しなければならない。

⑫ 2年次

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)	改善 (A)		
評価項目	評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果	指標別	総合	所考査・課題改善案
「自ら考え行動できる生徒」の育成を図る。 (生徒一人一人に目標と規範意識を持たせ、主体的に行動する生徒を育てる。) 3. 考えるチカラ 4. 行動するチカラ 5. コミュニケーション力	(1) 規律ある生活習慣を身につけると共に、他者を受け入れ協力して学校行事に取り組むことができるようとする。	①基本的生活習慣の徹底 ・無断欠席及び遅刻、早退の予防に向けた指導 ・挨拶、礼法指導の徹底 ・正しい制服着用の常時指導	2	3	3	・遅刻生徒の固定化が問題。2学期末に保護者召喚し注意喚起。 ・ネクタイやリボンの非装着、違反軌下など制服の着崩しが多く、容儀指導の間だけ正しい服装している生徒が多い。常時指導もなかなか生徒に届かないため、指導の難しさを感じる。
		②奉仕や思いやりの心の育成 ・人権学習(統一LHR)を実施 ・清掃活動に生徒とともに参加	4			・清掃活動は生徒によって取り組みがまちまちである。 ・統一LHRは3学期に実施予定。 ・SNSの使用方法や言動など人権に関する話を年次集会で機会ある度に実施した。 修学旅行中は、班員で協力してトラブルを乗り越えるなど、思いやりのある行動が見られた。
		③生徒一人一役の場面づくり ・生徒参加型の年次集会の実施 ・学校行事や委員会活動の主体的な活動を促す	3			・機会がある度に生徒が人前に出る場面を設けた。ただ、主体的な活動まではできていない。
		④インターンシップや介護実習の充実 ・地域の企業及び施設との連携を図る ・充実した事前及び事後指導の実施	3	3	3	・インターンシップでは36事業所の協力をいただき、様々な業種の体験を行った。 ・特編授業で事前事後指導を行った。荒天による帰宅のため事前訪問と挨拶ができなかった。事後指導では、最終的に1年に跨り協力いただき発表の機会が得られた。 ・介護実習で生徒は多く学んだ。感染症の問題で参加時期がずれ、実習後の授業に支障が出た生徒。
		⑤進路に関する情報の提供 ・オーブンキャンパスやが「パン」参加を呼びかける ・求人票についての説明及び提示 ・就職試験及び進路試験に関する書類の説明	2			・夏休み中のオープンキャンパスや仕事体験など呼びかけはしたが、参加者は思うほどいなかつた。 ・求人票の説明や提示、進路意識を高めるための仕掛けを3学期に実施する予定。
		⑥日々の活動を通してキャリア教育の充実 ・行事前の目的伝達や後の振り返り実施 ・Kadogawa Career LogやWorkの有効活用	3			・キャリログやタブレットを使用して2年独自の行事後にはアンケートや振り返りを行った。
		⑦課題提出の徹底 ・教科担当者との連携 ・キャリログミニを活用した予定管理	2			・長期休暇後に課題未提出者対象の学習会を実施した。日々の課題も含め出さない生徒が多く、根気強い指導の継続が必要。 ・キャリログミニはテスト範囲の記入時程度での活用しかできなかった。今後メモを取る習慣をつけさせたい。
		⑧試験前後の学習指導の充実 ・試験前後の指導により学習意欲を喚起させる ・基礎力診断テストD3減少に向けた取り組み	3			・中間テスト点の欠点者に対して、期末前に取り組む時間のプリントを作成し、計画的な学習を促した。
		⑨ICT端末を用いた学習の効率化 ・効果的なタブレット活用による学習指導 ・多様な生徒への学習支援の充実	3			・行事の際に活用することができた。 ・端末を持って来ない生徒が固定化しており、全体指導が非常にやりづらい。

⑬ 3年次

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)	改善 (A)		
評価項目	評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果	指標別	総合	所考査・課題改善案
「常に感謝の気持ちを忘れない。何事にも真剣に取り組み、進路実現できる生徒」の育成を図る。 (社会に通用する行動様式を身につけ、就職・進学試験に対応できる学力と態度を身につけさせ、希望進路の実現を目指す)	(1) 就職・進学試験に応できる基礎学力及び礼儀作法を身につけることができる。	①基礎学力の向上 ・基礎力ワークを活用した模擬テストの実施 ・課題提出の徹底 ・定期テスト後の欠点者集会 ・教科担当者との連携 ・基礎力診断テストD3を減らす ・各定期テスト欠点保有者10%以下	2	2	2	・就職試験に向けて毎週金曜日の朝読書の時間に実施することができた。熱心に取り組む生徒が固定化され、基礎学力向上の底上げはできなかった。 ・定期テストにおいては素点欠点の保有者が非常に多く、提出物等の管理も難しい生徒が多く見られた。
		②基本的生活習慣の徹底 ・挨拶、礼法指導の徹底 ・服装容儀指導合格70% ・無断欠席及び遅刻指導の徹底	2			・遅刻・欠席する生徒は固定化されている。これまでと同様、保護者と連携した指導を行っていきたい。 ・面接練習等で、言葉遣いや身だしなみなど、多少は改善されたように感じる。これから社会に出るまでの指導は継続して行いたい。
		③二者面談及び三者面談の実施 ・5月までに二者面談の実施 ・7月初旬までに三者面談の実施 ・7月末までに希望する進路の決定	3	3	3	・各クラスにおいて実施することができた。進路意識が低く、受験先の決定にまで行きつくことが難しい生徒もいた。
		④12月までに全生徒の進路決定 ・進路指導部との連携 ・学科及び系列との連携 ・年次会での情報交換	3			・現在結果待ちを含め16名が未決定となっている。これから受験の生徒については受験先の決定、試験対策等行いたい。また、結果待ちの生徒については先を見越した準備も進めていきたい。
		⑤生徒一人一役の場面づくり ・生徒参加型の年次集会の実施 ・生徒主体の行事づくり	3			・各学校行事では3年生として頼もしい姿を見てくれた。年次集会等でも各クラス反省等述べることができた。
		⑥人権学習の充実 ・統一LHR(人権学習)を年2回以上実施 ・生徒の自己肯定感を高める ・他者を思いやるところの育成	3	3	3	・統一LHRは当初2回の予定であったが、1回のみの実施であった。人権担当と連携していきたい。
		⑦就職・進学試験に応できる基礎学力及び礼儀作法を身につけることができる。	3			

⑭栽培ビジネス系列

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)	改善 (A)			
評価項目	評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果	指標別	総合	結果の分析考察・課題改善案	
生徒一人一人の興味・関心を喚起する授業及び実習を行う。栽培における基礎・基本的生活習慣の確立、資格取得に取り組み、将来の農業の担い手の育成を目指す。	(1)日常の授業や実習、地域との連携事業をとおし、農業や自然・環境に関する基本的な知識や技術を習得し、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。	①座学と実験・実習の組み合わせによる知識・技術の定着を図る。	3	4	3	実習や座学、科目間の連携などを実行しない一定の技術は身に付いたが、なかなか知識としての定着が困難だった。授業や農業鑑定の指導のあり方など検討したい。	
		②「次代を担う高校生林業体験学習」への2年次全員参加。	4			台風や熱中症対策として、今年度から12月実施としたため、授業や実習の流れを見直した。時期的な課題として研修先の路面凍結やインフルエンザ対策などが課題。	
		③地域との連携、近隣小中学校との交流活動の実施、食育、花育活動等を実践する。また、他系列との連携を図り、生産物の活用等、学習の深化に努める。	4			交流事業やふるさと納税の返礼品など近隣保育園、日向市役所、門川町役場、地域連絡協議会等、地域や行政、森林組合などとの連携を図ることができた。今年度も、門川町と宮崎大学の協力を得ることができた。	
		④DX・スマート農業に関する機器の導入に伴い、先端機器等の活用を推進し、魅力ある授業づくりを目指す。	2	3		機器の故障により、昨年より活用度が低い面はあった。授業内やプロジェクト活動にのまごとにタブレットの活用が定着した。	
		⑤教科内実習を取り入れた現場とリンクした学習の展開に努める。	4			教科内実習に対する生徒の意欲が高く、割合は科目ごとに異なるものの概ね実施できた。座学での知識の習得が困難な生徒もいるが、技術の習得や実習での教え合など理解力が向上したよう	
		⑥特別会計における適正な農場運営を行う。特に金銭の取り扱いについて複数で確認する。	4			部門間でも確認するなど、適性な取り扱いを行なうことができた。	
	(2)落ち着いた教育環境を確保し、授業・実習を通して安全教育や礼法指導を行い社会人としての基礎を身に付けさせる。	①あいさつや服装容儀点検の徹底を図る。	4	4		1年次から2年次、3年次、各部門と年次を重ねる中で一貫して指導できた。	
		②総合実習における服装点検の実施と安全教育の徹底を図る。	3			各部門で異なる服装ではなく、統一した意識が必要。安全教育の見直しをもう一歩進めたい。	
		③即売会や普段の販売実習を通して、地域の方々と関わり、礼儀や接客マナーを身に付けさせる。	4			普段の実習とは異なる規模での即売会となり、生徒達も来場者に圧倒されながら学ぶところは大きいものがあったように感じた。来場者からの生徒への苦情を減らすために、イベントではなく学習活動であるという意識を定着させていきたい。	
	(4)資格取得の指導を充実させ、合格率の向上を図る。	①資格取得に伴う手続きを複数で行い、ミスのない体制づくりを行う。	4	3		複数人で確認を行なったが、ミスがあった。修正可能なものであったが、複数回の確認が必要であった。	
		②年間1回資格試験の受験を促す。	2			検定料が値上げしていることもあり、少數が複数受験している状況である。個々に応じた精選と個別指導、その職員対応のあり方の検討が必要。	
		③農業技術検定の合格率80%を目指す。	2			今年度の結果が出ていないため、昨年度の結果で記載。80%合格のため、日々の授業や実習での知識の定着を図りたい。	

⑮食品加工系列

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)	改善 (A)			
評価項目	評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果	指標別	総合	結果の分析考察・課題改善案	
1. 食のプロを目指して、創造力や実践力、道徳心をバランスよく兼ね備えた人材の育成を目指す。	(1)基礎基本の徹底と作業安全管理体制の確立	①座学と実習を系統的に実施し、基礎基本を習得させ、食品の専門性を高める。また、ICT機器を利用した授業への取り組みを推進する。	4	4	3	座学と実習の連携を図り徹底することができた。ICT機器を利用した授業への取り組みを推進することができる程度できた。	
		②食品安全マニュアルの適正実施や実習前点検を確実に実行し、食品事故の発生を未然に防止する態度を養成する。	4			マニュアルの確認を職員で確実に行い、生徒に徹底することで食品安全事故の発生を防止することができた。	
		③5S活動の徹底（整理・整頓・清潔・清掃・躰）の実行と異物混入や交差汚染防止に努める。	3			5S活動の徹底と異物混入の防止等を徹底することができた。特に、整理・整頓・清掃等に1年生生をしっかりと取り組ませることができた。	
		④商品・製品の技術開発に向けての定着を図る。	3			商品・製品の技術開発に向けての定着を図ることがある程度できた。実験・実習・座学等で製造に興味・関心を持たせ実施することができた。	
		⑤DXの研修並びに生徒への活用を定着させる。	3			総合探求・授業等でDX機器・設備を活用することができた。	
		⑥農業技術検定取得80%以上を目指す。	結果待ち			過去の検定問題集やテキストを精選して職員で取り組むことがある程度できた。	
	(2)実社会で通用するする安全に関する知識と技術を習得する。	①ワープロ検定2年生は全員、3年生は80%以上の受験を目指す。	3	3		農業情報の授業等を通して指導を行うことができた。2月の検定で受験者を増やすとともに合格率を高めたい。	
		②資格取得を1人2個以上を目指す。（小型車両系建設機械など）	2			△ 小型車両系建設機械は台風のため中止。他の資格取得において希望者を募る。	
		③即売会や普段の販売実習を通しての定着を図る。	3			△ フードロスについて学び規格外のトマトを利用して加工品等の研究や防災時に提供する防災クリエイティーフードに取り組んだ。地域の特産品（食材）がまだ埋もれていると思われる所以探して商品開発に力を入れたい。	
	(3)資格取得による学習意欲の向上	①地域との連携	3	3		○ 未参加の生徒も見られるが、積極的に参加する生徒も見受けられた。	
		②即売会での販売実習	2			○ 授業前に正しい服装の着用、号令等の徹底をある程度、実施することができた。中には意識の低い生徒がいるため重視的に指導していきたい。	
		③即売会での販売実習	3	3		○ 職員の指導で（挨拶の声がなど）繰り返し行うこと、身につけさせることができた。	

⑯生活科学系列

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)	改善 (A)			
評価項目	評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果	指標別	総合	結果の分析考察・課題改善案	
生活に必要な知識や技術を身につける意識の向上を図り、自ら考え、他者と協働してたくましく生き抜く力を育成する。	(1)一人ひとりの良識を伸長するための職員で連携した指導を行う	①専門教科や実技指導等において、個に応じた効果的な学習支援のあり方を模索し、情報を共有する。	4	3	3	成績 ・放課後などに個別の支援を行ったり、TTで役割を分けて教授することができた。 ・面接練習などにおいて系列としてサポートすることができた。	
		②クラス担任と連携して学期に1回系列職員による面談を行い、進路実現を支援する。	3			課題改善点 ・実技面において技術の習得に時間がかかる生徒が増えている。個別対応の時間をどう捻出するかが課題 ・進路実現に向けた担任との情報交換や連携に力を入れたい	
		③専門教科ならびに総合的な探究の時間において地域と連携して系列の学びを生かした取り組みを行う。	4			成績 ・総合的な探究の時間においてどの取り組みも地域連携や交流ができる、生徒の成長の場になっている。	
		④即売会での活動を充実させる。	4	4		課題改善点 ・即売会では教科の学びと連携した専門的な活動ができた。系列の縦つながりの場になった。	
		⑤系列の学びに関連したカドコウ学びのフェスティバルの取り組みを企画し、地域連携を充実させる。	4			成績 ・即売会での3年次の活動を次年度は再検討する。 ・インターンシップが年次主導となり、連携しながら実施することができたが、教科と連携した保育実習の在り方を検討する。	
		⑥学習効果を高める一人一台端末の活用において、ICT活用指導力を向上する研修に参加し、教材研修	3			課題改善点 ・動画や教材提示で効果的に活用できた場面も増えているが、生徒同士の協働活動などにおいて有効に使うための研鑽に励みたい	
	(3)専門知識や技術の習得を目指した授業実践と資格取得の推進	⑦専門性を深める外部講師を招聘する。	4	3		成績 ・技術検定の取得率の変遷があり、今年度後期での受検を見送り、次年度での受検とした。	
		⑧家庭科技術検定（食物調理・被服製作・保育）合格率90%以上を目指す。	-			課題改善点 ・パソコンに関する検定は2月受検希望の生徒が多く、現時点での検証はできない	
		⑨日本語ワープロ検定、プレゼンテーション検定を2年次生検定、文書デザイン検定、情報処理技能検定（表計算）を3年生で受検し、合格率70%以上	-				

⑯健康スポーツ系列

目標 (G)	計画 (P)	実践 (D)	評価 (C)	改善 (A)		
評価項目	評価指標・数値目標	方策・手立て	数値結果	指標別	総合	所考察・課題改善案
医療や看護、体育・スポーツに関する学習を通して、生涯で生きがいある生活を送るための基盤となる基礎的な知識と技術を習得させる。また、心と体の健康を考え、広く社会貢献に寄与できる能力・態度を身につけさせる。	(1) 地域社会に貢献できるために必要な能力や態度を身につけさせる。	①学校生活全体を通して、礼儀作法や集団行動について、日常指導を徹底する。 (系列職員の評価8割以上)	3	3	3	△ 元気良くあいさつするなど、部活動を含めた指導によりおおむねできていたが、授業態度などで注意を受ける生徒が多かった。
		②学期に1回の系列集会。必要があれば随時行う。 (年3回)	2			● 日程の都合が付かず、今年度は実施できなかった。しかし、年次ごとに授業の中で講話などは行った。
		③あかつき学園との交流会の企画・運営。ボランティア活動に年1回参加する。 (生徒の評価8割以上)	4			○ 12月6日に実施した。準備などを含め、しっかりと活動できた。
	(2) 進路学習と定期的な学力分析などにおいて組織的・継続的な指導を行う。	①定期検査や基礎学力テスト等を材料とした学力検討を行い、職員の共通理解と進路指導部との連携を図る。	2	3	3	● 欠点者が延べ数で10名以上出てしまった。 対策をしっかりとしたい。
		②総合探求（デュアルシステムなど）の指導内容を整備し、外部との関わりや自己肯定感が持てるよう計画し、キャリア教育の実践を通じて職業観と進路意識を高める。	3			△ 今年度もデュアルシステムを無事終えることができた。終えた生徒の反省を見ると勤労観や感謝の気持ちが育っているように感じている。ただ、9月頃に生徒が実習先に行かず、サボるという事案が起きました。巡回を含め、反省点である。
		③進路希望毎に小論文、面接、必要教科の組織的な指導が行えるよう組織化を図る。 (系列職員の評価8割以上)	4			○ 3年次の面接・小論文指導では、進路支援部や3年次との連携を図りながら、系列担当職員全員で行うことができた。2年次・1年次に対しても、進路意識の向上など、しっかりと促すことができた。全職員の協力のもと、ほとんどの3年生について進路内定を頂くことができました。感謝
	(3) 各資格取得、検定試験合格を目指す。系列職員の連携強化。	①各検定試験の合格を目指す。 (生徒資格取得率6割以上)	3	3	3	△ 防災士の資格取得を実施しなくなった分、今年度は授業を通して、2月の情報処理検定を受験させる予定である。
		②生徒理解を深めるために職員間の意見交換を積極的に行う。 (系列職員の評価8割以上)	4			○ 各先生方が生徒と関わっていただき、共通理解の上で指導に当たることができた。